

4. 等深線変化モデルの構築

(1)再現試行の計算条件

(2)再現試行の計算結果

(1)再現試行の計算条件 1)比較項目・条件一覧

- 68 -

項目	比較項目	比較条件			
沿岸漂砂	卓越海浜流係数 a	卓越海浜流係数 $a \times 10^4$			
		10	15	20	25
	漂砂量係数 k $k \times 10^3$	5	●	●	●
		10	●	●	●
		15	●	●	●
		20		●	
波浪条件	データ蓄積による見直し	通年・月毎の設定 年毎・月毎の設定			
沿岸漂砂の 岸沖分布	データ蓄積による見直し	測量による標準偏差 上記の5点移動平均			
代表粒径ごとの 平衡勾配	データ蓄積による見直し	d_{50} で便宜的に算定 粒度組成を考慮 論文提示値※			
沖合流出	流出する水深帯	全域(+4~-12m) 海域(-1~-12m) 陸域(+4~0m)			
	流出時期	通年 台風期(8~10月)			
	流出する粒径	0.09mm 0.09-0.18mm 0.09-0.35mm			
	流出の有無	流出あり 流出なし			
地盤沈降	沈降の有無	沈降あり(3mm/年) 沈降なし			
突堤等の捕捉率	捕捉率	30% 50% 70% 100%			

※局所勾配算定式の適用範囲と底質特性の新しい評価指標, 野志ら, 2005

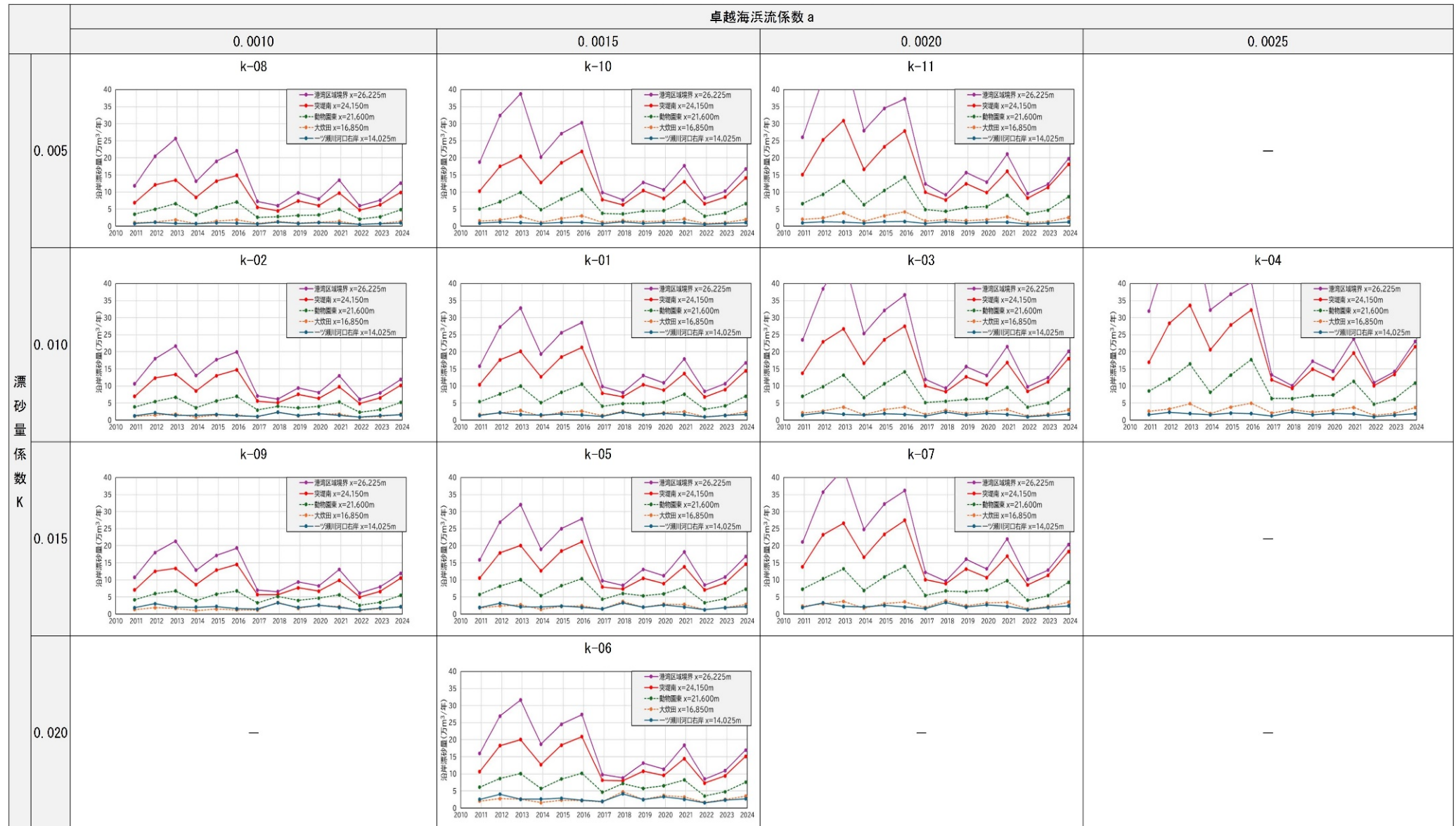
(1)再現試行の計算条件 2)比較計算ケース一覧

ケース	波浪条件	沖合流出＋飛砂損失＋宮崎港内損失							地盤沈降 (mm/年)	代表粒径ごとの 平衡勾配	沿岸漂砂の 岸冲分布	卓越海浜流		漂砂量 係数	突堤の 捕捉率	管理No.
		流出量(万m ³ /年)			陸側 (T.P.,m)	海側 (T.P.,m)	時期	粒径				方位	係数			
		小丸ー一ツ瀬	一ツ瀬-港湾境界	港湾区域												
k-01	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	50%	r6.15.01
k-02	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.001	0.01	50%	r6.15.02
k-03	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.002	0.01	50%	r6.15.03
k-04	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0025	0.01	50%	r6.15.04
k-05	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.015	50%	r6.15.05
k-06	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.02	50%	r6.15.06
k-07	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.002	0.015	50%	r6.15.07
k-08	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.001	0.005	50%	r6.15.08
k-09	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.001	0.015	50%	r6.15.09
k-10	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.005	50%	r6.15.10
k-11	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.002	0.005	50%	r6.15.11
k-12	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	0	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	50%	r6.15.12
k-13	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	-1	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	50%	r6.15.13
k-14	年毎・月毎	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	50%	r6.15.14
k-15	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	50%	r6.15.15
k-16	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	30%	r6.15.16
k-17	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	70%	r6.15.17
k-18	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	100%	r6.15.18
k-19	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	0	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	50%	r6.15.19
k-20	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案2)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	50%	r6.15.31
k-21	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案3)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	50%	r6.15.32
k-22	通年・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	50%	r6.15.41
k-23	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	1-12月流出	0.09、0.18mm を流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	50%	r6.15.51
k-24	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09mmを流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	50%	r6.15.54
k-25	年毎・月毎	5.3	6.6	4.0	4	-12	8-10月流出	0.09、0.18、 0.35mmを流出	-3	蓄積データを用いた測量と底質の関係より設定(案1)	測量による標準偏差より作成 (5点移動平均)	SSE,SE,SE Eについて考 慮	0.0015	0.01	50%	r6.15.55

(2)再現試行の計算結果

1)漂砂量係数・卓越海浜流係数 ①沿岸漂砂量

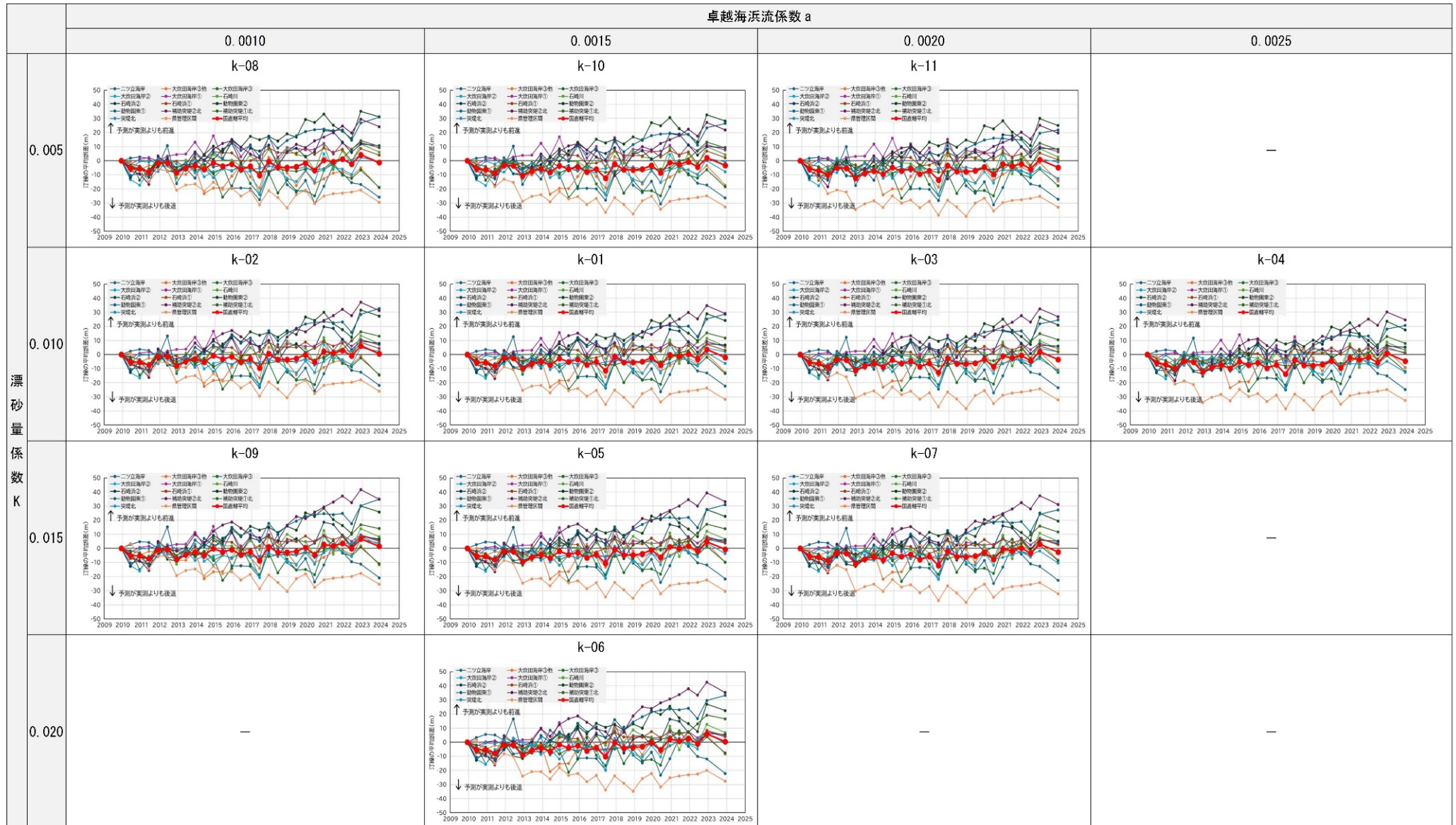
- 70 -



(2)再現試行の計算結果

1)漂砂量係数・卓越海浜流係数 ②汀線誤差

- 71 -



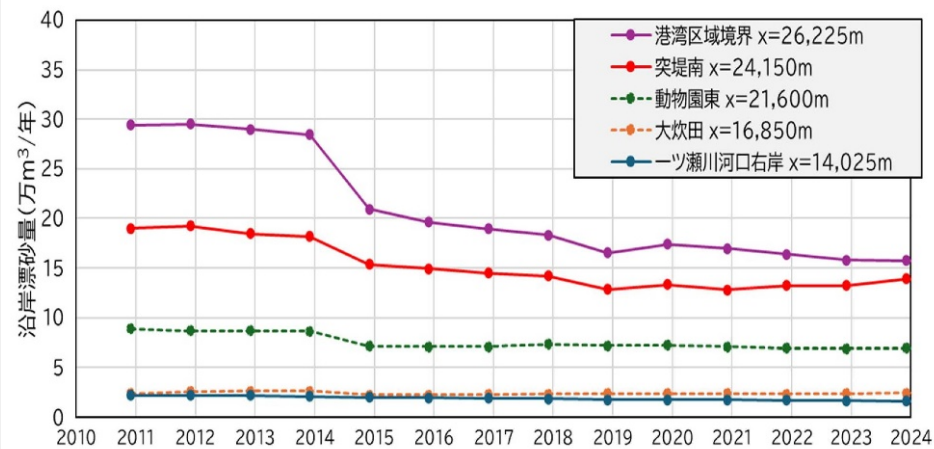
(2)再現試行の計算結果

2)波浪作用条件(沿岸漂砂量・汀線誤差)

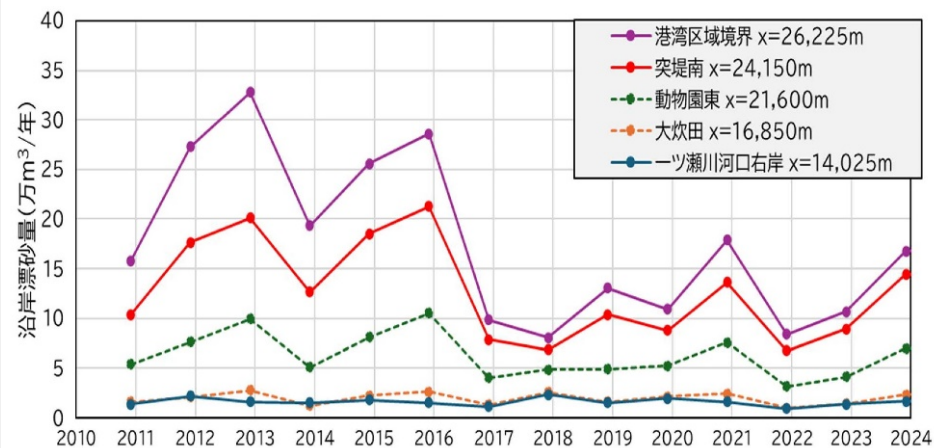
- 72 -

○沿岸漂砂量

通年・月毎の設定, ケース k-22

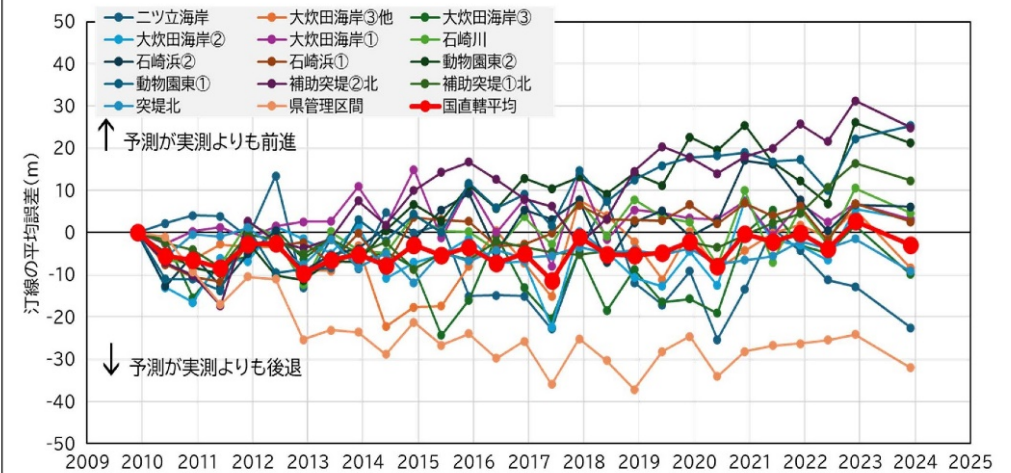


年毎・月毎の設定, ケース k-01

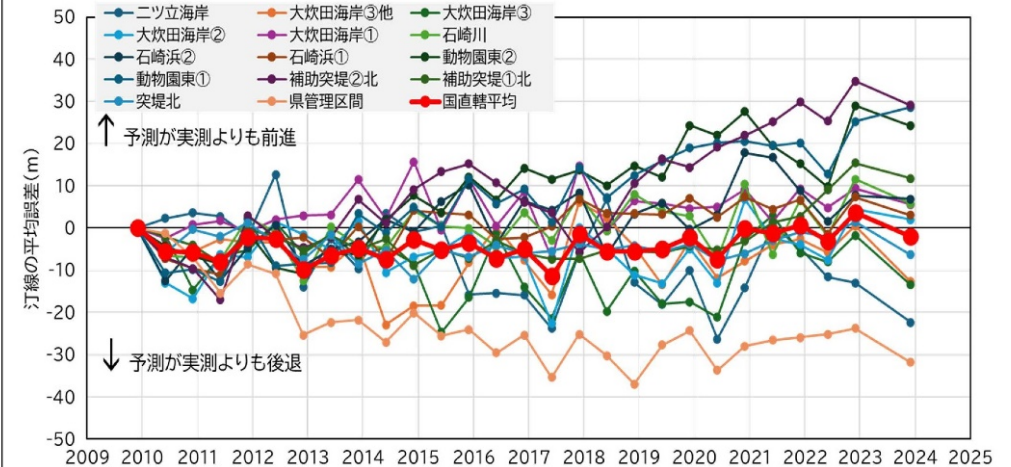


○汀線誤差

通年・月毎の設定, ケース k-22



年毎・月毎の設定, ケース k-01

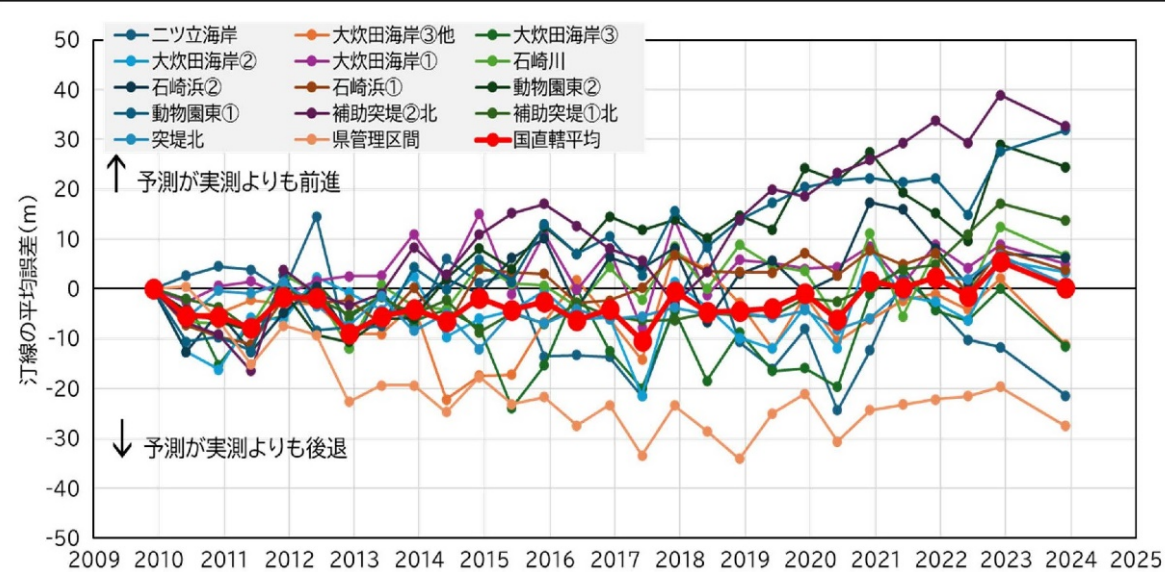


(2)再現試行の計算結果

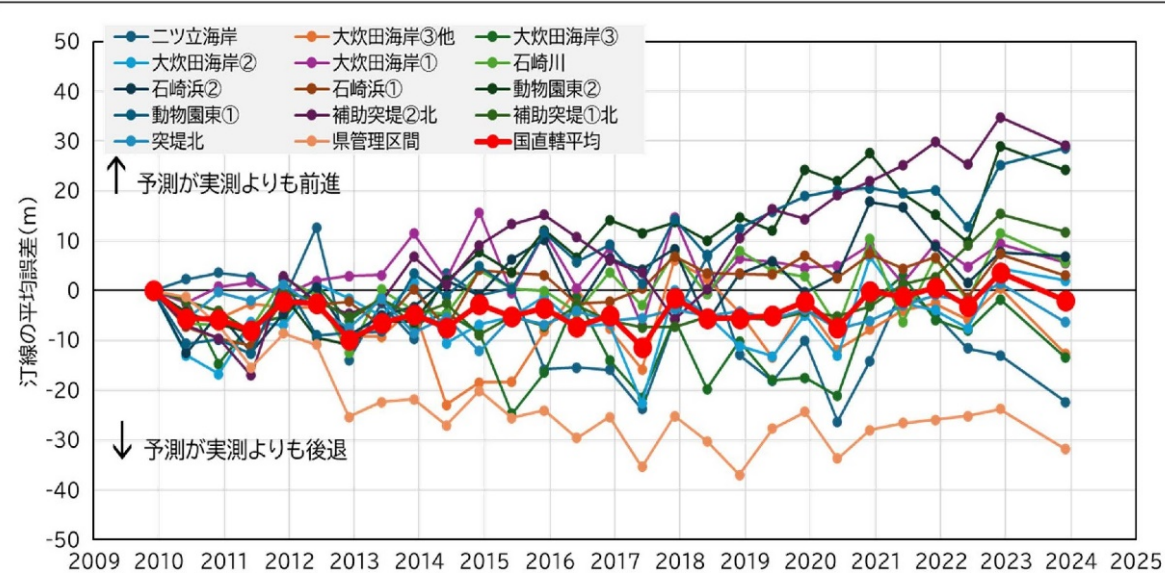
3)沿岸漂砂の岸沖分布(汀線誤差)

- 73 -

測量による標準偏差，ケース k-15



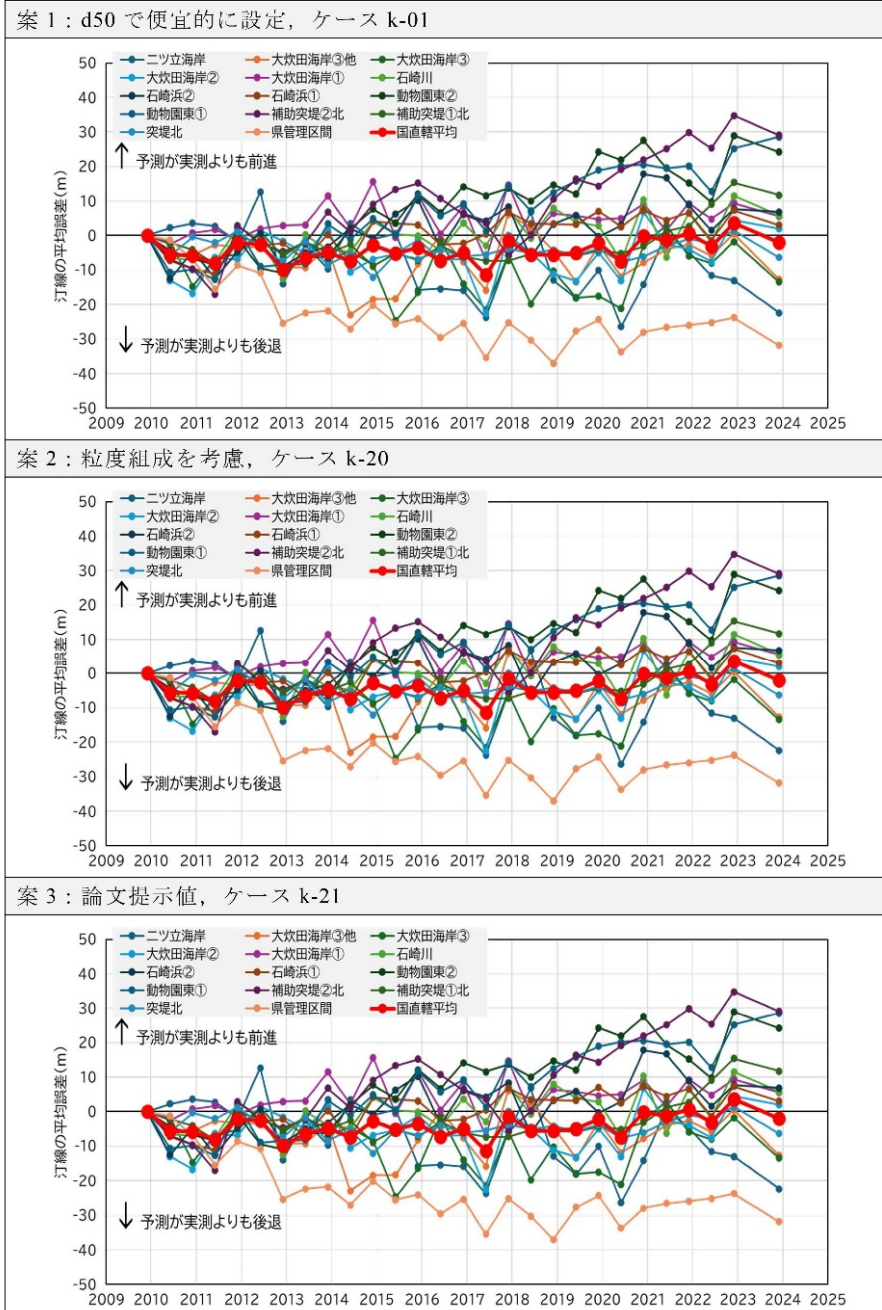
測量による標準偏差の5点移動平均，ケース k-01



(2)再現試行の計算結果

4)代表粒径ごとの平衡勾配(汀線誤差)

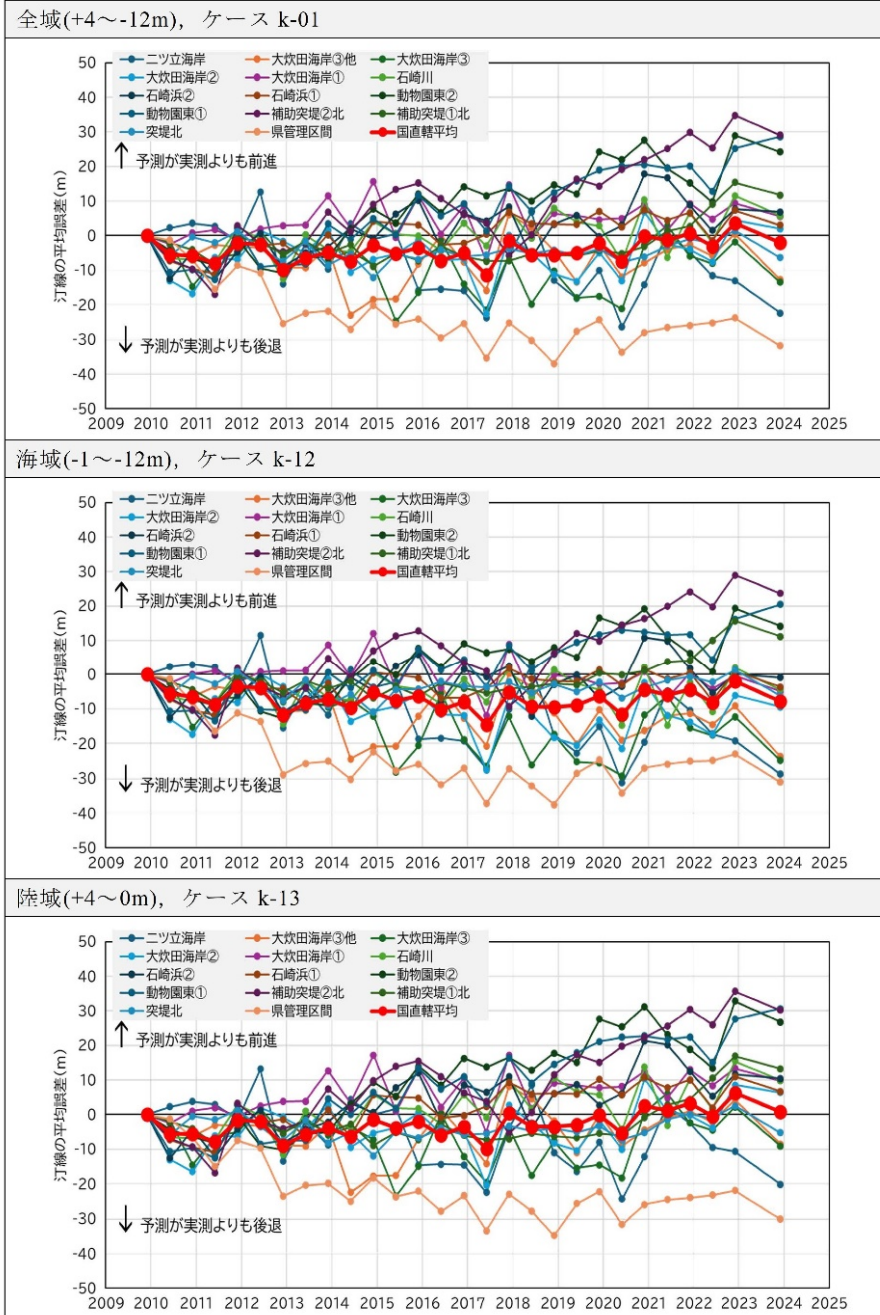
- 74 -



(2)再現試行の計算結果

5)沖合流出の水深帯(汀線誤差)

- 75 -

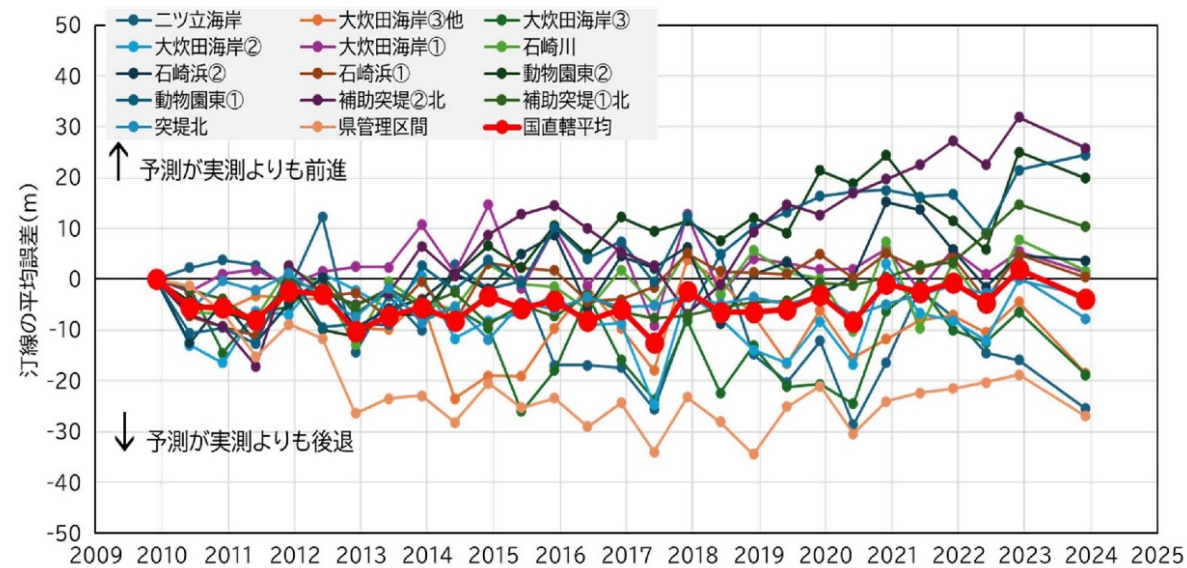


(2)再現試行の計算結果

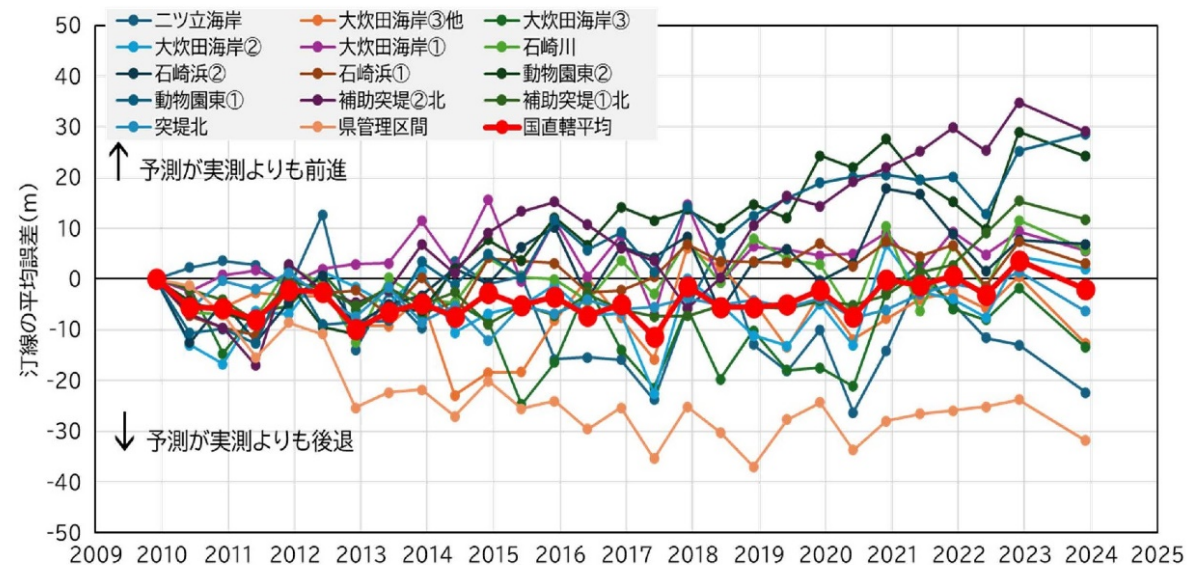
6) 沖合流出の流出時期(汀線誤差)

- 76 -

通年(1～12月), ケース k-23



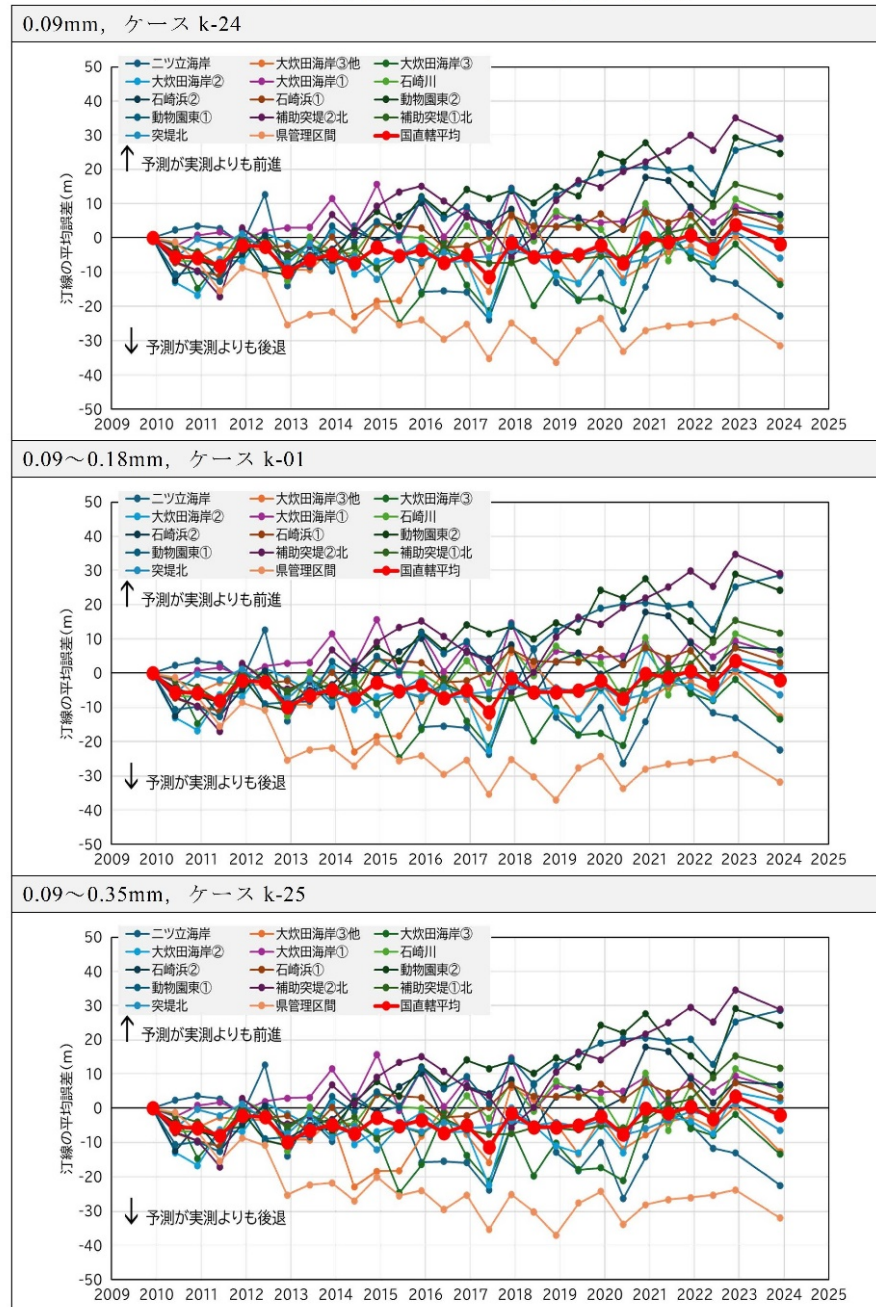
台風期(8～10月), ケース k-01



(2)再現試行の計算結果

7) 沖合流出の流出する粒径(汀線誤差)

- 77 -

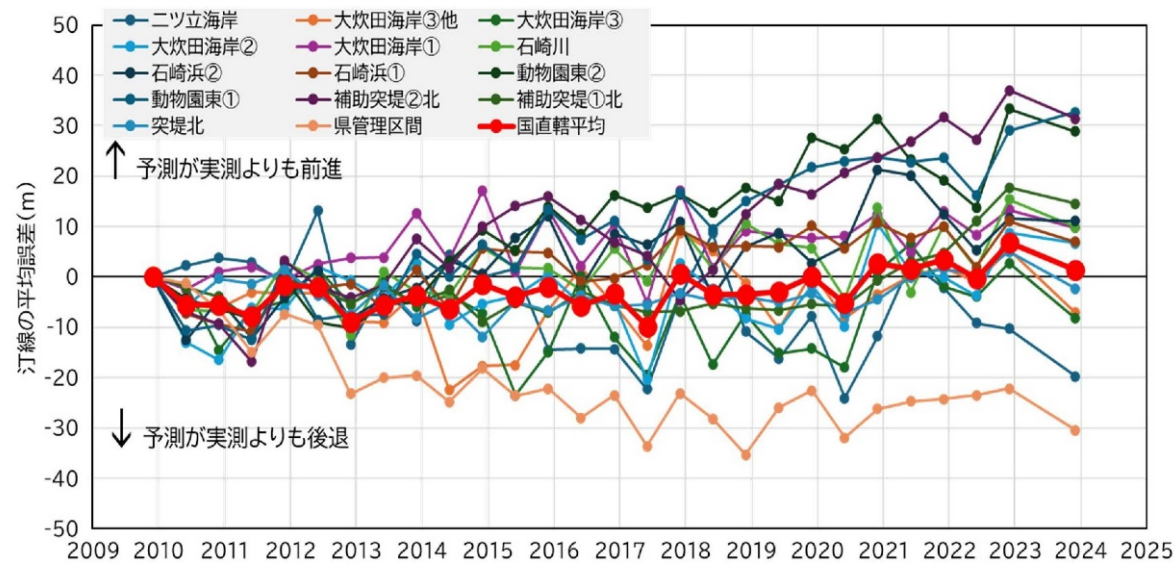


(2)再現試行の計算結果

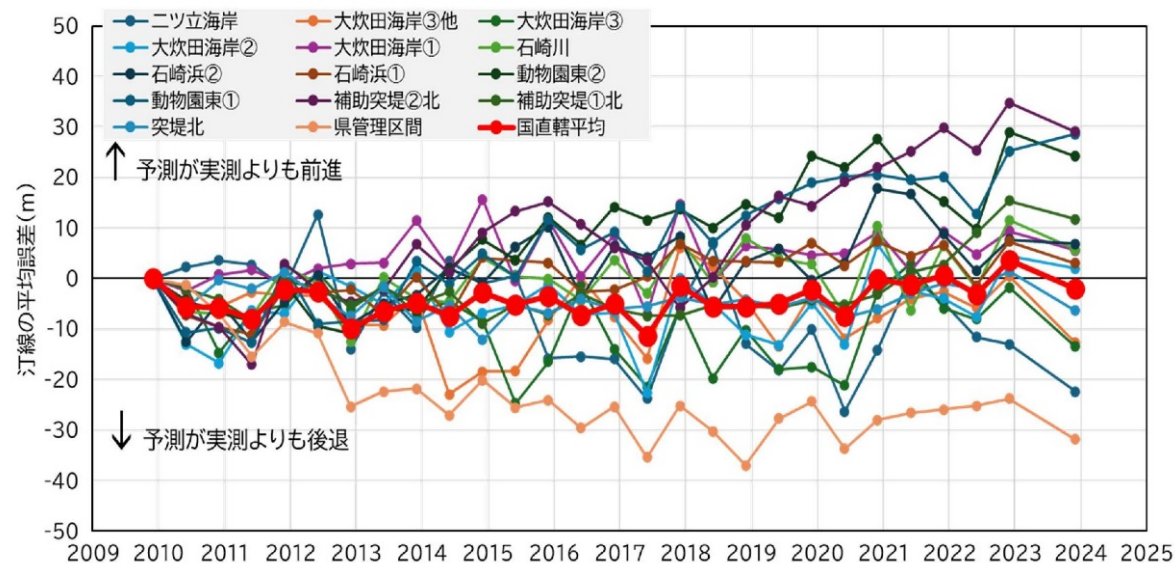
8)沖合流出の有無(汀線誤差)

- 78 -

沖合流出なし，ケース k-14



沖合流出あり，ケース k-01

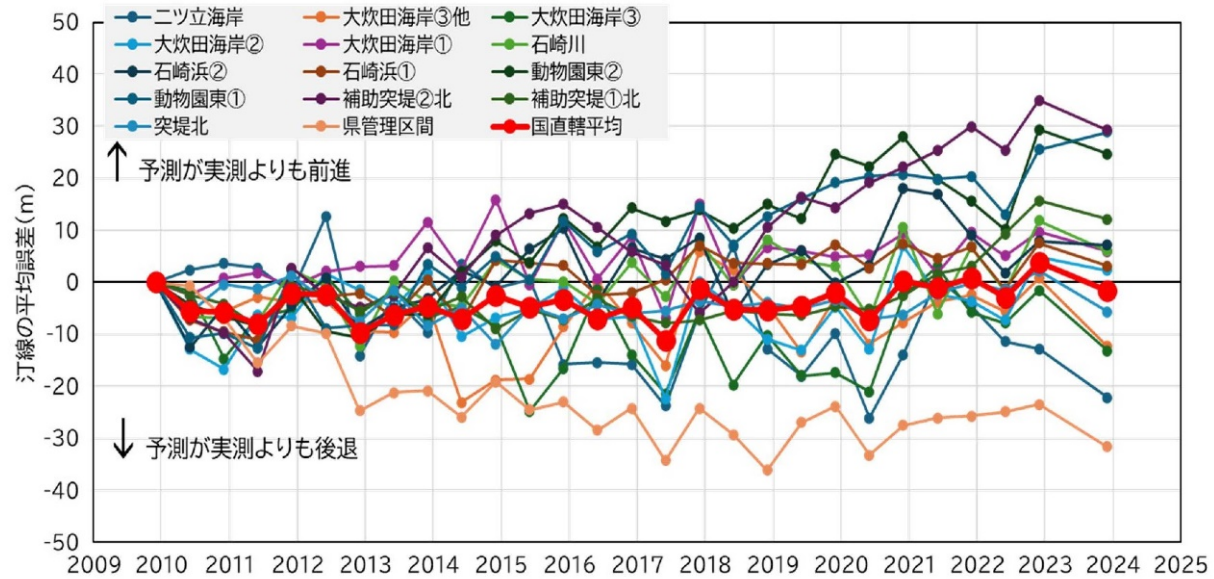


(2)再現試行の計算結果

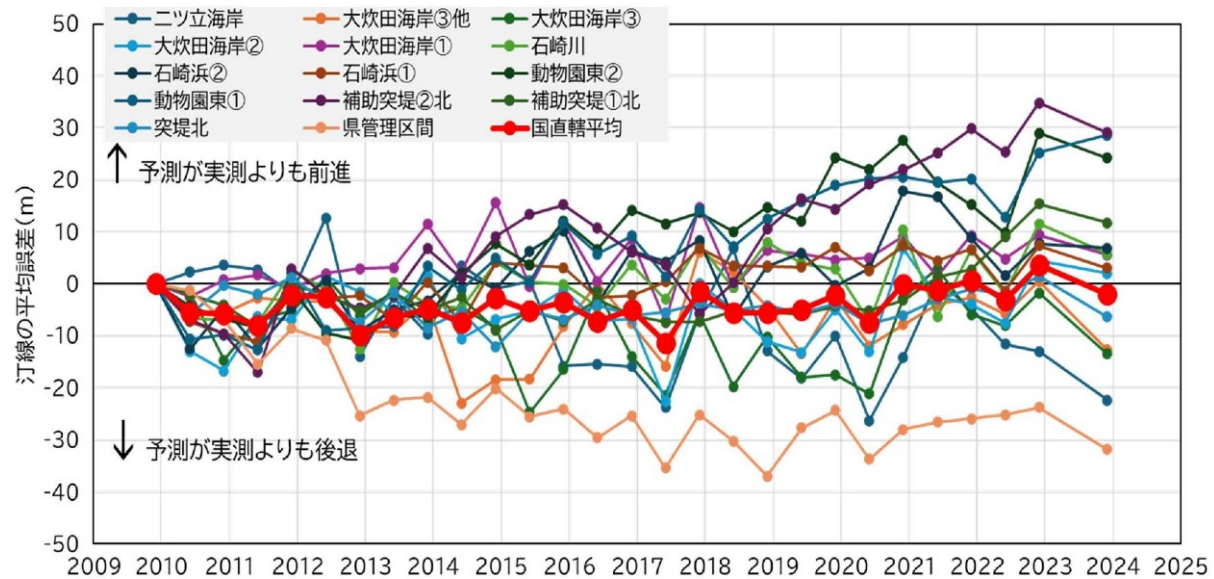
9)地盤沈降の有無(汀線誤差)

- 79 -

地盤沈降なし，ケース k-19



地盤沈降あり，ケース k-01

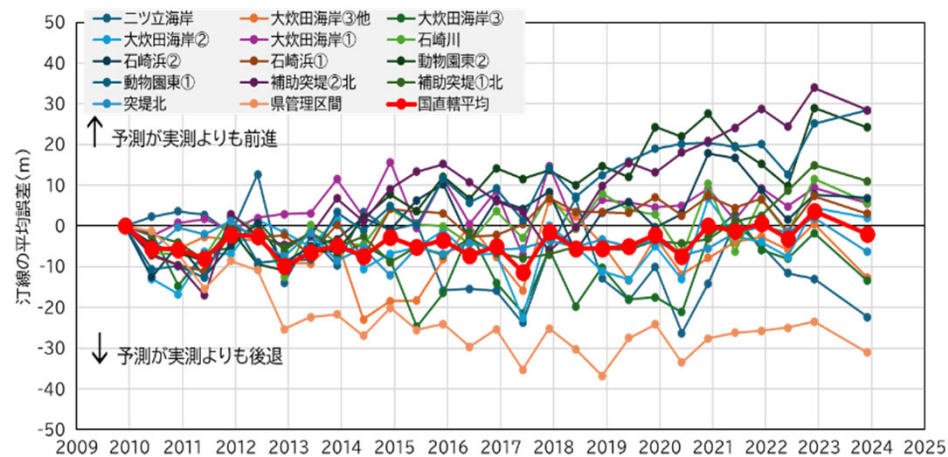


(2)再現試行の計算結果

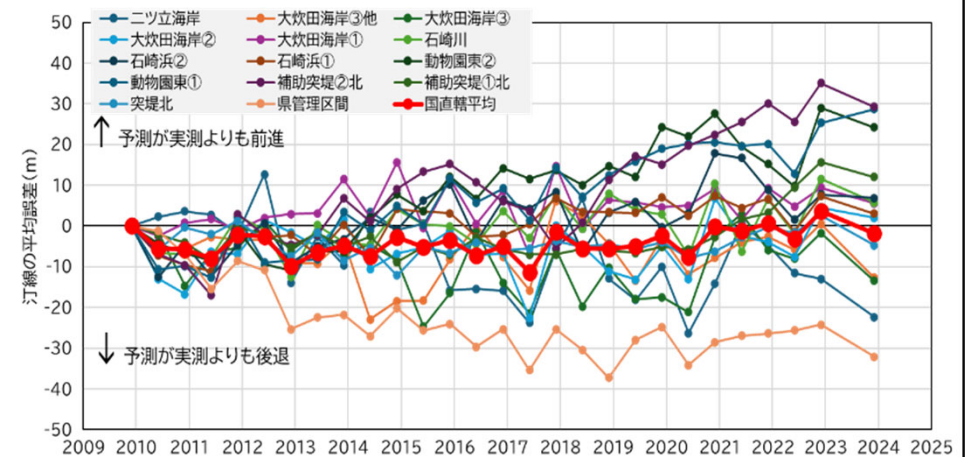
10)突堤等の捕捉率(汀線誤差)

- 80 -

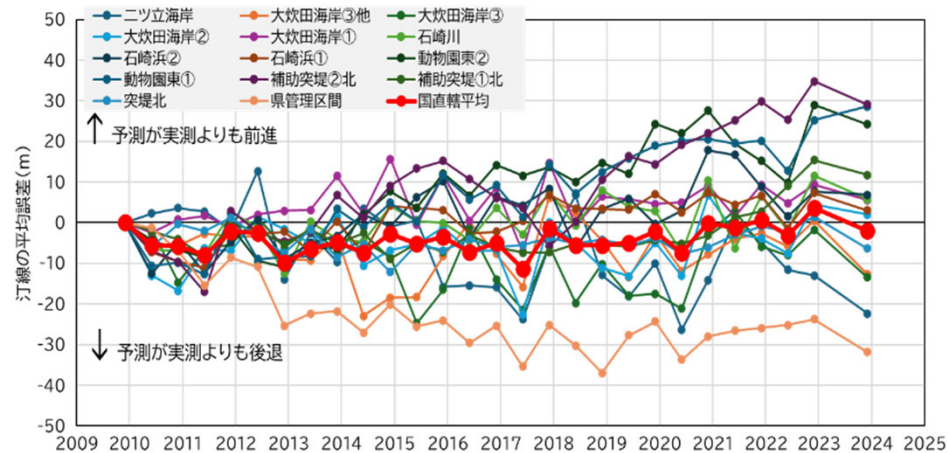
突堤の捕捉率30%，ケースk-16



突堤の捕捉率70%，ケースk-17



突堤の捕捉率50%，ケースk-01



突堤の捕捉率100%，ケースk-18

